

第43回グリーンプランおおた推進会議 議事概要

日 時

令和7年7月8日（火）14:00～16:00

会 場

大田区役所本庁舎 11階 第三・四委員会室

出席者

【推進会議委員】 島田委員長、池邊副委員長、村上副委員長、加藤委員、向井委員、氏家委員、深澤委員、阿部委員、牧野委員、原田委員、菅原委員、曾根委員、西山委員、遠藤委員、山田委員 計15名
【その他】 関係所管課長

議事案件1 委員長・副委員長の選出

委員

- 島田委員を委員長、池邊委員と村上委員を副委員長に推薦する。
→一同、拍手により賛同

- ご意見ないようなので、令和6年度実施事業の進捗状況報告(案)について承認されたものとする。

議事案件2 第42回グリーンプランおおた推進会議の振り返り

- 承認する：15名 承認しない：0名

委員長

- ご意見ないようなので、議事概要について承認されたものとする。

報告案件1-1 つながるみどり基金の取組、運用について

委員

- PRが重要で、使途の具体化が必要であり、寄付の結果がどのような未来につながるか視覚的に示すべき。今の案ではイメージしにくいため、具体的な掘り下げが必要である。一緒に検討したい。

→事務局

- 同様に認識しており、寄付者がイメージしやすいチラシの作成を検討しており、次回会議で提示したい。
- 基金の確保手法は示した3つが基本だが、多様な手法も検討していく。

→委員長

議事案件3 令和6年度実施事業の進捗状況報告

- 承認する：15名 承認しない：0名

委員長

- ・区民の緑に対する認識は多様であり、様々な段階に応じた PR 方法と使途の検討が必要である。
- ・毎年一定額の資金が継続的にに入るよう、部長を中心に様々な角度から手法を検討してほしい。

→委員

- ・基金の運用には、広く共感を得られるような街の変化を見せる工夫と、安定的な財源確保が不可欠である。環境を取り巻く制度は変化するため、常にアンテナを高く持ち、安定的な財源確保に取組みたい。また、寄付がいかに街に役立っているかの見える化にも柔軟に取り組みたい。

委員

- ・前期に使途として挙がった多摩川台の紫陽花はどうなったか。
- ・ふるさと納税でない場合は、寄付者へのお返しとして植樹場所へのネームプレート掲示や伐採した木を加工したコースターなどがあると良い。

→委員

- ・多摩川台の紫陽花については、前回の議論を踏まえ、使途の透明性を保ちつつ、具体的な使途は基金が集まった後に提案し承認を得る方針である。
- ・寄付者へのお返しはしたいが、具体的には決まっていない。グッズの場合、郵送事務などの課題がある。引き続き検討する。
- ・ふるさと納税での使途については、寄付者が分かりやすい表現を検討する。

委員長

- ・区の予算でできることは区の予算で、基金は基金ならではの取り組みに使うべきだという前回の議論があった。「つながる」という基金の名称にふさわしく、人と人、地域、事業者、区役所がつながるイメージを持たせるべきである。前所管部であるまちづくり推進部と詰めてほしい。

副委員長

- ・横浜市の緑の市民税では、公共事業と市民税による事業の明確な仕分けをし、市民税の必要性を明確にしている。街路樹の剪定に加え、一定の団体の緑活動への補助にも使われており、コミュニティの緊密化につながっている。大田区でも区民が「つながるプラン」として分かりやすく、区民の健康、豊かな暮らし、癒しに資するものを一つ入れても良いと思う。
- ・基金の受付、PR が 1 月開始となっているが、寄付の期限である 12 月から受付ができるように PR を早めに行い、初年度の寄付額を増やすことで、翌年度への継続的な寄付を促せるようにすべきである。インスタ映えするようなイラストなども活用し、区民の SNS での拡散を促すような工夫も望む。

委員

- ・使途については、グリーンプランの「大田区らしさを表す緑」を参考に、委員の皆様から具体的な意見をいただきたい。区の予算には限りがあり、基金を地域還元や大田区らしい緑づくりに繋げたいので、テーマに関する意見を求む。

→委員

- ・区民の活動がつながるような、使途案にある緑の保全活動や区民団体への助成に基金を活用するのが良い。

→委員

- ・勝海舟基金では、扇子やボールペンなど作っている。基金が集まればこういった品物に活用することも有効だと考える。

→委員

- ・PRする前に、基金の使途は仮決めでも具体的に示すべきだ。寄付者は何に使われるか明確でないと寄付しにくい。例えば、コミュニティ活動、特にふれあいパーク活動では清掃を含めないと支援金がなく、花壇整備だけだと自腹になる。地域力応援基金では助成金を何度も得たが、事務手続きがとても大変である。事務手続きが簡単で、物資提供やお金で事業費だけでなく運営費にも充てられる仕組みがあれば、物価高に苦しむ多くの団体が助かる。多くのアイデアがあるので、どこかで議論できることを望む。

→委員長

- ・是非後日議論したい。運用案は次回の推進会議までに調整を求める。

→事務局

頂いた様々な意見を踏まえ、今後のPRでは皆様のアイデアも加えて情報発信を進める。次回の会議で基金の運用方針を決定するため、本日頂いた意見を再度集計するとともに、再度皆様のご意見を伺いたい。

報告案件 1-2 大田区グリーンインフラ事業計画の策定について

副委員長

グリーンインフラガイドラインは計画の次の段階、具体的な実装フェーズと理解している。事業計画本編のP.33～35の類型別のグリーンインフラ展開図は誰がどのように利用できるか不明瞭で、浸水実績などの情報も、具体的な図面、データ等の確認方法の提供が必要と感じる。また、資料3－4の2ページ目のグリーンインフラガイドラインのとりまとめイメージは使われにくいと思った。ガイドラインと事業計画との連続性を詰める必要がある。

- ・多機能なグリーンインフラの特性を活かすため、浸水実績のある場所に雨水貯留、雨水浸透を図るといった主要な目的に加えて、生物生息空間化や子育て世代の親水空間利用など、機能拡張のプロセスも示すべきだ。

委員長

- ・区報でグリーンインフラ特集があったが、区民には分かりにくい内容だったと思う。基金とも関連するため、区民に分かりやすく解説し、具体的に何をするのかを示す必要がある。

委員

- ・スケジュール感が不明である。どの地域にどの技術を使うのか、行政や民間での勉強会や説明会、パイロット事業の予定など、

具体的な展開が見えない。

→**事務局**

- ・スケジュール感を含め、区民にグリーンインフラ事業計画をどう活用してもらうかが重要だ。前回の議論で作成した地域ごとの整備イメージ図は分かりやすいが、この計画は行政だけではなく、皆さんの活動を通じて具体的な成果を見せることがポイントとなる。ガイドライン作成を通じて、こうした取り組みを推進していく。

→**課長**

- ・昨年度策定したグリーンインフラ事業計画は、区としての大きな方針を示したものだ。公共工事では、36 ページ以降で防災減災や地域振興に資する具体的な整備計画を示している。今後はガイドラインを作成し、事業者や区民が技術的な側面を含めて理解し、グリーンインフラの取り組みを具体的に進められるようになる。

→**委員**

- ・事業計画は、分かりやすさを重視し、コラムで既存の活動がグリーンインフラであることを示している。さらに新たな取り組みを啓発し、事業計画と連動させて推進していきたい。

委員長

- ・既存の活動と、新たな取組みを明快にすることで、分かりやすくなる。
- ・事務局は、引き継ぎ後短期間でよく準備したと高く評価する。今後に期待する。

その他 みどりの見学会の開催について

委員長

- ・池上本門寺周辺を対象に 10 月頃を予定しているとのこと。日程が決まり次第、連絡がある。

事務連絡 次回の推進会議について（予定）

事務局

- ・次回の推進会議は、令和 7 年 10 月 29 日の開催を予定している、日にちが近付いたら事務局から通知させて頂く。
- ・今回の会議内容に関するお気づきの点は、7 月 15 日(火)までに事務局へ連絡をお願いする。

以上